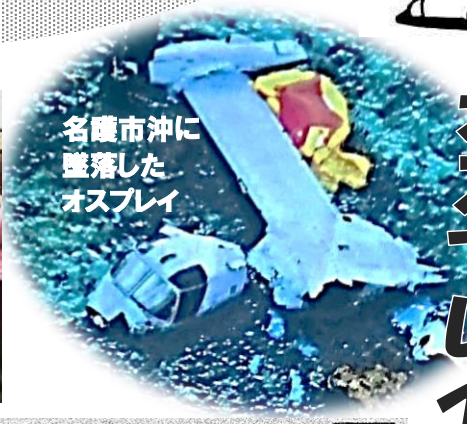
「辺野古土砂搬出反対」全国連絡協議会ニュース・2017年1月発行

# つながる力

≪No.7≫

16.12.17 キャンプ・シュワブ前　抗議の緊急集会




## やっぱり落ちた！欠陥機オスプレイを撤去せよ！

### 緊急抗議集会アピール案

米海兵隊普天間基地所属の垂直離着陸輸送機MV22オスプレイが12月13日、名護市安部集落の海岸に墜落大破する事故が発生した。

同日、別のオスプレイが夜間に普天間飛行場に胴体着陸する事故も発生した。この2つの事故によって、名護市・宜野湾市民の受けた恐怖は計り知れず、沖縄県民に大きな不安と衝撃を与えた。

欠陥機オスプレイは配備当初から騒音や環境問題に対する不安や墜落の懸念が指摘され、沖縄県、沖縄県議会、各種市民団体、政党、労組などが幾度も日米両政府に対して配備撤回を求めてきた。

にもかかわらず、日米両政府は2012年、県民の大きな反対運動を押し切り、オスプレイ配備を強行した。その結果、沖縄県民の恐れが現実のものとなった。

日米両政府は沖縄県民の不安に耳を傾けることなく、事故からわずか6日後、欠陥機オスプレイの全面飛行が再開された。

また、去る12月6日と7日には宜野座村や金武町の民間地上空で危険な物資のつり下げ訓練が激化、さらに、貴重な自然環境が残る県民の水がめ東村高江地区や伊江村において昼夜を問わず訓練が日常化している。

オスプレイ墜落の危険性は既に沖縄全域に広がっている。

沖縄県民の命と暮らしを危険にさらすものであり断じて許すことはできない。

世界一危険な普天間基地の危険性を放置し続け、20年間固定化してきた一番の当事者は日米両政府である。

沖縄のどこの地にも普天間基地を移設する場所は存在しない。

オール沖縄会議は、翁長雄志沖縄県知事と共に、次代に禍根を残さないために、島ぐるみ、県民総ぐるみで、オスプレイの撤去、普天間基地の閉鎖・撤去、辺野古新基地建設断念を成し遂げるまで奮闘し闘い抜く。

2016年12月22日

辺野古に新基地を造らせないオール沖縄会議

## ー 目 次 ー

オスプレイは、どこにもいらない　湯浅一郎・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P2
「県民にリードされている」という翁長沖縄県知事と
「勝つ方法はあきらめないこと」と呼びかける稲嶺名護市長　阿部悦子・・・・・・・・・・・・P4
１１月２２日　奄美会議、鹿児島県知事に「要請書」提出　城村典文・・・・・・・・・・・・・P5
生物多様性国家戦略に反する辺野古埋立て用土砂搬出　松本宣崇・湯浅一郎・・・・・・・・P6
辺野古埋立て用土砂搬出計画撤回を求める署名　１１月１日、第二次提出　・・　・・・・・・・・P7
外来種防除対策のガイドライン策定を求めよう　湯浅一郎・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P8
決議　島嶼生態系への外来種の侵入経路管理の強化　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P9
「鹿児島学習交流集会・南大隅視察」を終えて　阿部悦子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P10
１１月２３日　鹿児島学習交流集会　八記久美子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P11
辺野古土砂全協の南大隅町辺塚視察を取り組んで　大坪満寿子・・・・・・・・・・・・・・・・P12
１１，２４　辺野古への岩ズリ採取地・南大隅町辺塚視察に想う・・・・・・・・・・・・・・・・P13
!!御所浦島が泣いています!!　花里安幸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P14
≪沖縄からの便り・その３≫「 国策 」という暴力に抗して・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P15
インフォメーション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P16

※写真提供…阿部悦子・松本宣崇・八記久美子

# 起こるべくして起きたオスプレイ大事故

# ー オスプレイは、どこにもいらない ー

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会顧問　　湯浅　一郎

◆事故は夜間空中給油訓練の
固定翼モードで起きた

琉球新報
THE RYUKYU SHIMPO
12月14日 水曜日
オスプレイ墜落
名護東沿岸、夜間訓練
乗員5人、2人は
北部着陸帯使用機か
埋め立て要件を

2016.12.14　琉球新報朝刊１面

2016 年 12 月 13 日、夜 9 時 30 分頃、名護市安部（あぶ）の浅瀬でオスプレイが着水し、大破した。乗員５名の内２名負傷したが死者はなかった。12 月 7 日には岩国基地の FA18 ホーネットが高知県沖で墜落したばかりだ。事故機は、沖縄北東の海上で他のオスプレイ１機（同機は事故機の空中監視の後、着陸装置の故障により普天間基地で胴体着陸）とともに MC-130（嘉手納）からの夜間空中給油の訓練を実施していた。防衛省によると給油終了後、乱気流等により給油ホースとオスプレイのプロペラの羽が接触し、損傷した。羽の損傷は回転するうちに大きくなり、飛行が不安定となり、キャンプ・シュワブへ向け飛行したが、途中辿り着けなくなり浅瀬に着水した。

米軍は、事故は、空中給油に伴い発生したもので、搭載システム、機械系統あるいは機体構造を原因とするものではないとし、全機体の安全上の調査、確認を以って、19 日、空中給油以外の飛行を、17 年 1 月 6 日には空中給油訓練も再開した。日本政府は、「原因究明されるまでの飛行停止」を求めていたが、簡単に飛行再開を受け入れた。

◆真相究明には程遠い飛行再開

原因究明に必要な疑問点を列挙してみよう。

ａ）プロペラの羽根が損傷した事象について。

・羽を損傷した時の位置、高度、飛行速度、気象条件（気温、風速）が不明。

・大気の乱気流により具体的に何が起きたのかが不明。

・機体の大きさに比しプロペラが異様に大きく、夜間に暗視ゴーグルを装着しての給油作業は難しいはず。

ｂ）最大の問題は、羽が損傷した後の飛行状況がわからないこと。

・事故の最大かつ深刻な特徴は、滑空ができ、安全とされる固定翼モードで起きたこと。

・羽が損傷した方のエンジンは停止し、片方のプロペラだけで飛行したのか？又は両エンジンを止め滑空の形を取ったのか？等が不明。

・「飛行が不安定な状態になった」のは、機体重量に比べ揚力不足のオスプレイ特有の現象ではないのか？オスプレイは、重い主翼とそれを胴体から支える構造により自重が約１７トンあるため揚力不足である。

ｃ）制御でき、安定飛行できていたのか？

・キャンプ・シュワブまでわずか約 5ｋｍでなぜ着水したのか？発見地点の写真から左に傾きながら着水したように見えるがどうか。これらは、制御不能だったことを示していないか。米軍は、「不時着水」とし、政府は、それをそのまま発表した。

しかし滑空しながら水平姿勢を保ち、制御された状態で徐々に降下した証拠はなく、少なくとも「不時着水」ではない。航空機を制御できていれば、機体の損傷を引き起こさず着水できたはずだ。

これらの情報はボイスレコーダーの分析からわかるはずだが、それは公開されていない。少なくとも事故報告書が出て、両政府間で検証できるまで飛行再開はありえない。

### ◆減らないオスプレイの事故

「航空機の機種の安全記録を代表する指標として」米軍が使用する事故率がある。これは、「延べ１０万飛行時間当たりのクラスＡ事故の発生件数」で定義される。クラスＡとは、被害総額が 200 万ドル以上や死亡の発生などの大きな事故である。米海軍安全センターは、今回の事故をクラスＡと評価し、被害額を 95 億ドルとしている。

12 年 9 月、オスプレイ普天間配備に当たり、政府は、オスプレイの事故率は 12 年 4 月時点で、延べ 10 万 3519 飛行時間で事故率 1.93 であり、海兵隊全航空機の平均 2.45 より低いとした。その上で、一般に航空機は飛行時間を重ねるごとに事故率は低下すると説明した。その後、事故率は、12 年 9 月、1.65、13 年 9 月、2.61、14 年 9 月、2.1、15 年 9 月、2.64、更に 15 年 12 月、3.69（「琉球新報」）で、オスプレイの事故率は飛行時間が増えても低下していない。この際、これまでの事故を全て検証する作業が不可欠であろう。

### ◆事故はどこでも起こりうる

普天間配備２４機の本土飛来は、13 年 3 月 6 日、岩国基地の 3 機から始まった。東日本への初飛来は 14 年 7 月 15 日、１機が厚木基地に飛来し、東富士を往復した。15 年 3 月 23 日、佐世保基地にオスプレイ 2 機が初飛来し、燃料補給を受けた。こうしてオスプレイは岩国、厚木、横田、佐世保への飛来を恒常化させている。

さらに飛来増をもたらす新たな計画が目白押しである。陸自木更津駐屯地のオスプレイ整備場（17 年）。CV22 オスプレイ１０機の横田配備（17 年）。陸自１７機の佐賀空港配備（予定）。空母搭載オスプレイ２機の岩国基地配備（21 年以降、推定）。これらが予定通り進めば計５３機のオスプレイが配備され、全国での飛来が日常化し、事故は列島全域で起こりうる。

速報 琉球新報 THE RYUKYU SHIMPO
12月22日（木）
発行所 琉球新報社 郵便番号 〒900－8525 那覇市天久905番地 ©琉球新報社2016年

オスプレイ撤退を 県民の怒り頂点

名護市で緊急抗議集会

【名護】名護市安部の海岸に米軍垂直離着陸輸送機MV22オスプレイが墜落した事故を受けた、欠陥機オスプレイ撤去を求める緊急抗議集会が22日午後6時30分から名護市の21世紀の森屋内運動場で始まった。主催は米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設に反対する政党や市民団体でつくる「オール沖縄会議」。

県民が多数参加し、オスプレイの墜落やわずか6日後の飛行再開など、沖縄に寄り添わない政府の姿勢に抗議した。

集会には翁長雄志知事や稲嶺進名護市長、国政野党の県選出国会議員5氏が出席、オスプレイの撤去や新基地建設の断念などを求める。

集会は22日午後に名護市の万国津梁館で開かれた北部訓練場返還式典に合わせて企画された。返還式典の会場周辺にも式典開始前から、ヘリパッド建設に反対する市民らが多く集まり、開催を批判するシュプレヒコールを繰り返した。

一方、東村高江の米軍北部訓練場のメインゲートには午前8時ごろから市民らが集まり、露骨なアメとムチの政策で返還をアピールし、辺野古の新基地建設を強行する政府は許せない」などと怒りの声を上げた。

「オール沖縄会議」が名護市で開催した「オスプレイ撤去を求める緊急集会」には 4,000 人を超す沖縄県民が参加した。　2016.12.22　琉球新報速報

今回の事故は、固定翼モードでのプロペラ損傷により起きたが、背景には揚力不足という構造的問題がある。これは、垂直離着陸モードで両エンジンが停止した場合のオートローテーション機能の有無や最も危険な転換モードに関する議論にも波及する。事故を契機に、オスプレイは日本列島のどこにもいらないという声を自治体をも巻き込みながら作っていくことが求められている。

# 「県民にリードされている」という翁長沖縄県知事と「勝つ方法はあきらめないこと」と呼びかける稲嶺名護市長

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会共同代表　　阿部　悦子

●その日、12 月 22 日は、政府が「沖縄の負担軽減」を謳い文句に、キャロライン・ケネディ米大使、稲田防衛大臣などが出席して「沖縄米軍北部訓練場返還式」を名護のホテルで仰々しく行った日。折しもその 9 日前 13 日には、オスプレイが辺野古に近い名護市安部の浅瀬に墜落し、原因究明もないまま 6 日後にはオスプレイの飛行が再開した。翁長知事が式典欠席を決断したのも当然だった。

16.12.22　オスプレイ撤去を求める緊急抗議集会

●同じ 22 日夜、名護市の屋内体育館の「欠陥機オスプレイ撤去を求める緊急抗議集会」に県民 4200 人が集まった。翁長知事、稲嶺名護市長、県内選出全国会議員をはじめ辺野古と高江で闘う市民が壇上から短くても核心を突いた心のこもったスピーチを行い会場から拍手が鳴りやまなかった。

集会が始まる少し前、会場中の人々が一斉に突如として拍手する様子に驚く私に、沖縄の友人が「翁長知事が会場に入って来られたのよ」と言う。こんな体験は初めてだった。「こんなに愛され信頼される知事は日本中にいないよ」「沖縄県民はすごいねえ」と私はつぶやいた・・・そしてこの場に立ち会えた幸運に感謝せずにはいられなかった。

●しかし、私が今回滞在した沖縄は、過酷で冷酷で吐き気を催すほどの日米政府からの暴力的な圧政が押し寄せていた。誰もが懸念していたオスプレイが墜落したのは 13 日、墜落現場の安部の浜には機動隊と沖縄県警が米兵を警護して日本人の誰も近づけず秘密裏に墜落の残骸を持ち去るのを目撃。この国の主権はこの国にはないことを今更に実感した。さらに米軍責任者ニコルソン四軍司令官のコメントが伝わってきた。「集落への被害がないことを感謝してほしい。表彰状がほしいくらいだ」と。墜落現場の至近距離にある安部集落の女性が、テレビの画面で「私たちが米軍に感謝ってどういうことでしょうか」と涙ながらに語ったことを忘れない。(驚き怒る私に、本部の友人は「いつものこと」と言ったのだ！)

●12 月 20 日には、辺野古埋立処分を巡る訴訟で最高裁から県側敗訴の判決が下りた。「年度末」と言われていた判決日を大幅に繰り上げて辺野古埋め立て工事の再開を急ぎ、高江のオスプレイパッドの工期を半年も前倒ししてずさんなまま「完成」させたのも、ケネディ大使の帰国と「返還式」に間に合わせたということだ。

●昨年4月にうるま市の20歳の女性が強姦されて山中に捨てられた。戦時中は日本軍の、戦後は米兵からの暴力に多くの女性や子供が晒されてきた。熾烈を極めた沖縄戦の体験と今も続く基地被害の中にある人々が「基地がある限り非暴力、不服従、直接行動」を掲げて自ら行動し知事をリードし支えている。政府の沖縄への圧政を許しているのは本土の私たちだということを恥じるだけではない行動が私たちに求められる。

●翁長知事は「私は県民にリードされている」と言い、稲嶺市長は大会を締めくくる言葉として「勝つ方法はあきらめないこと」と呼びかけた。

本土の私たちの覚悟が問われている。

# 11 月 22 日　奄美会議、鹿児島県知事に「要望書」提出

# 外来種の県外移出防止　奄美採石場の認可取消し・海洋汚染防止を！

奄美ブロック護憲平和フォーラム事務局長　　城村　典文

11 月 22 日鹿児島県庁に出向き、「自然と文化を守る奄美会議」は、商工政策課と環境課の課長に三反園新知事宛の『故郷の自然を守る要請書』を手渡しました。特定外来種移出禁止に関する認識などについて、その上で課長さん方のお考えも承るつもりであったが、「上部へ申し伝える」との話で、硬直した縦割り行政を垣間見ることになりました。

大津共同代表は、奄美・市集落の採石場からサンゴ礁への赤土汚染の改善策を熱っぽく訴えましたが、採石場外の事案は管轄外との回答。奄美に生息する特定外来生物の「ハイイロゴケグモ」の移出に関する件では、国の所管事務の域を越えないというお話。

同行された向井県議は、穏やかに話し合いを運ばせようと舵取りに努力されました。

最後に大津代表は新鹿児島県知事へ提言、県庁を介して鹿児島と上海を結ぶ国際観光の拠点づくりを積極的にすすめる日中友好関係の構築。さらには隣県沖縄の翁長知事と早急に会談して、国と沖縄県が「対話と協調」の関係が築けるように三反園知事のご尽力をお願いしたいと注文しました。

新知事は今、原発再稼働問題で日本中の注目を集めている人物。近い内に知事との面談が叶うことを期待して、大津・阿部・松本・城村の要請団は、桜島に対峙する御殿のような鹿児島県庁を後にしました。

9　2016年(平成28年)11月24日　木曜日　奄　美

## 採石場認可取消など訴え

### 奄美会議 大津代表ら 知事宛の要望書提出

採石場の認可取り消しなどを訴える大津代表（右端）

【鹿児島】「自然と文化を守る奄美会議」の大津幸夫代表らが22日、鹿児島市の県庁を訪れ、海洋汚染の原因とされる奄美市住用町にある採石場の認可取り消しなどを訴えた三反園訓知事宛の要請書を提出した。

同採石場から流出する赤土の影響などで、とべら島周辺のサンゴ礁が汚染され「死の海」となったとされている。昨年5月と今年9月の田代豊・名桜大教授らによる専門家の調査で明らかになった。

また、瀬戸内町、大和村、龍郷町の採石場の石材が那覇空港第2滑走路建設の埋め立てに用いられているが、沖縄県が「外来生物の侵入防止に関する条例」に基づいて今年3月から4月に採石用材の仮置き場などを調査した結果、特定外来生物に指定される「ハイイロゴケグモ」がいることも判明した。「奄美会議」では、9月定例議会に移出禁止条例制定に関する陳情書を提出したが、不採択となった。

これらの採石場から搬出される土砂は、沖縄県名護市の辺野古埋立にも用いられており、辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会の阿部悦子代表、松本宣崇事務局長らも「この日の陳情に同席した。

県の商工政策課を訪れた大津代表らは「採石場の認可取り消し」「ハイイロゴケグモの移出防止策再検討」「沖縄の米軍基地問題の平和的解決」など4項目を盛り込んだ要請書を提出。大津代表は「奄美群島が国立公園指定や世界自然遺産登録を目指す中で、特定外来生物の移出が行われているのは国際法上も問題がある」などと強く訴えた。県側は「採石法に基づいて事業所の監督・指導はできるが、それ以外の場所については法律的権限がない」（商工政策課）「外来生物の移出に関しては国の所管業務」（自然保護課）とし「今後、関係部署と協議して対応を検討したい」と五田嘉博・商工政策課長が述べた。

大津代表は「要請書は事前にも渡してあったので、知事から何らかの回答があると期待していたのだが…」と憤る。「自然破壊が進む現場の住民の苦しみが県に伝わっていない。縦割り行政の弊害を感じた。三反園知事は県民目線を掲げているので今後に期待したい」と話した。

← 16.11.24 奄美新聞

**笑いがこぼれるが**
**笑ってはいられない余談**

初めて訪れた鹿児島県庁。県庁一階ロビーから最上階 18 階まで吹き抜けは、100 坪はあろうか。

そして、二階までしか行けず、完成後二年もせずして不使用になったエスカレーター。昇降口で出入りを封じる義援金箱が悲しい。　（　松本　宣崇　）

# 生物多様性国家戦略に反する辺野古埋立て用土砂搬出

## ― 外来種防除対策なしに、土砂購入予算８１６億円 ―

辺野古土砂全協事務局長　　松本　宣崇　　顧問　湯浅　一郎

### １）11 月１日　防衛・環境両省要請交渉

辺野古土砂全協は 16 年 11 月１日、辺野古土砂搬出計画の撤回を求め、近藤昭一（衆議院、民進）氏を紹介議員として防衛省・環境省と要請交渉を行った。二省には事前に要請書で、質問項目を通知し、質問への回答を得て、計二時間の質疑を行うことにしていた。

土砂搬出は、生物多様性国家戦略に照らし、外来種持ち込み、生物多様性の観点から見た重要な海域（以下、重要海域）の汚染という二つの側面から抵触の疑いが強いという視点から交渉した。

国会議員計８名、同秘書 14 人、土砂採取地各地からの８名含む市民 25 名が同席した。

防衛省は質問に対し、「法令に則り、環境に配慮して適切に対処していく」を繰り返すばかりであった。

また環境省も、「辺野古埋立てについての事業者・沖縄防衛局が適切に対処するものと考えている」と繰り返した。外来種防止対策や、重要海域の保全についても「自然的・社会的条件に基づいて適切に対処する」「個別的事情・事案には答えられない」を連発した。

二時間余りの交渉では残念ながら、議論を煮詰めるには余りにも短すぎた。

再質疑の中、明らかになったこと、及び争点になったことを報告しておきたい。

① 防衛省事業も「生物多様性国家戦略 2012-2020」に即して進めねばならないことを再確認。

② 埋立て用土砂に関する予算の再質問では、平成 28（2016）年度から三年間にわたり「埋立て土砂の採取・運搬など」に計８１６億円計上されていることが判明。ただし、埋立て許可取消に係る訴訟の「和解」により、今年度は執行されていないとした。

採取・運搬などの内訳や積算根拠の書面開示を約束したが、「…予定価格を類推され、今後の入札手続きに支障をきたす…」と、開示は全面的に拒否された。

③ 一方で外来種持ち込み防止対策については、何も検討されていない。<u>指導、助言を受けるとする防衛省の環境監視等委員会において、これまでに外来種問題を議論したことはない。</u>

④ しかし防衛省は「供給業者に調査をさせる」ことを、半ば決めている節の発言があった。これに対し、那覇空港埋立てに関わる奄美からの石材の持ち込みに関わって、何らチェック体制もなく破綻していることを指摘し、対策にならないことを問題にした。

⑤ 仮に外来種が発見された場合の防除策として、どのようなものが考えられるか。奄美から持ちこんだ「岩ズリ」を机に並べ、これを洗浄できるのかと迫った。かなり時間をかけたが、一言も答弁できなかった。

⑥ 埋立て免許申請添付図書-10 記載の土砂採取地・採取量の変更には、仲井真知事時代の許可

留意事項に記載の「沖縄県知事の承認が必要」であることを再確認した。

⑦　個別的事情・事案には答えられないと繰り返すが、予定地が抱えている個別状況は全く把握していない。

⑧　2015 年３月策定の外来生物防止行動計画が具体的な実効性を持っていない。各府県と各地方環境保護事務所の合同協議だけで、地方自治体や市民の活動は全く具体化されていない。

⑨　両省ともに海洋保護区設定への基礎資料・重要海域を軽視していると思わざるを得ない。

⑩　7,000 トンを超える巨大な辺野古埋立て用資材ケーソンの搬送方法には一切答えなかった。

**２）当面の取組み**

①　外来種対策策定の検討作業もないままであることは、生物多様性国家戦略を守れる保証がない。その段階での予算措置自体が矛盾しているが、国家戦略を守るため外来種対策の策定作業が済むまでは予算執行をしないよう迫る。

②　奄美・南大隅・五島など採取地及び採取量が変更される地域も相当ありそうだが、埋立て免許許可の留意事項「変更は知事承認が必要」の記載は、闘いの一つの焦点になりうる。

③　熊本県天草の御所浦島では、採取地への鉄鋼スラグ持込みを契機に、島民がこぞって土砂搬出に反対し、採石事業許可延長をしないよう熊本県に迫る運動が始まっている。各県に採石業の延長不許可を求めていきたい。

④　重要海域に「辺野古」が入り、小豆島、黒髪島、五島、天草、奄美大島、徳之島など土砂採取予定地の沿岸の海６割強も重要海域に面するという問題も今後活かしたい。

⑤　土砂搬出を止めるため IUCN 決議（９頁抄録参照）に見られる国際的な包囲網を力にしたい。

⑥　今要請交渉を分析･精査し､早急に再質問書、あるいは国会議員に沖縄・北方問題特別委での質問や質問主意書提出など要望していきたい。

## 辺野古埋立て用土砂搬出計画撤回を求める署名
## 11 月 1 日、第二次提出　41,470筆
## 合計　93，899筆になりました

昨年から全国に呼びかけてきた「西日本各地からの辺野古埋立て用土砂搬出計画撤回を求める署名」**第二次分４１，４７０筆**を 11 月 1 日、総理大臣・安倍晋三にあて内閣府に提出しました。昨年 10 月提出の一次分と合わせ、**計９３，８９９筆**になりました。採取計画を知った多くの市民が「辺野古埋立て用土砂を本土から？えっ、瀬戸内海から採取？」と驚き、全国の市民の皆さんのご協力で集められた「市民の声」を署名の形で届けました。ご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。

**辺野古埋立てをストップさせるため、辺野古土砂全協は引き続き署名活動を継続します。**
**ご協力をお願いします。**

# 外来種防除対策のガイドライン策定を求めよう

## ―外来種対策含む、土砂供給業者との契約手続きを阻止しよう―

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会顧問　　湯浅　一郎

辺野古は工事再開となり沖縄をめぐる情勢は極めて厳しい。が、焦っているのは政府の側であることも押さえておくべきであろう。とは言え、16年12月12日、衆議院沖縄及び北方問題に関する特別委員会における近藤昭一議員（民進党）の質問に対する政府答弁から土砂搬出問題にとって急ぎ対処すべきことがわかった。

11月1日、辺野古土砂全協の対政府交渉において、「普天間代替施設建設事業に係る平成28年度予算」に「埋立工事（埋め立て土砂の採取・運搬など）に係る予算として」、３年間で816億余円の予算が計上されていることが初めて判明した。

12月12日の衆議院沖縄及び北方問題に関する特別委員会において近藤議員が、これについて年度ごとの内訳と外来種対策費用が含まれているかどうか質問したところ、山本達夫政府参考人（防衛省大臣官房審議官）が、概ね以下のように答弁した。

1　契約ベースで約816億3200万円のうち平成28年度歳出分は約55億6100万円である。

2　同経費には外来種対策に係る費用も含まれている。しかし、外来種対策に係る費用のみを取り出して確定的に示すことは困難である。

3　具体的には、土砂調達に係る契約に当たり、仕様書等に、使用する埋立土砂が生態系に対する影響を及ぼさないものであることを確認する旨を規定し、埋立土砂の供給業者に所要の調査等を義務づけるなどの措置をとる。

4　当該調査等の結果については、環境監視等委員会などの指導助言を得て、さらに調査が必要と判断される場合には再度供給業者等に確認を求めるなど、沖縄防衛局が適切な対応をとる。

5　現時点では、環境監視等委員会で埋立てに伴う具体的な外来種対策の議論は行っていない。

矛盾に満ちた答弁である。算出根拠は示せないが、防衛省が単独で外来種防除対策の費用を積み上げ、「埋立土砂の供給業者に所要の調査等を義務づける」という。いかなる方法が外来種対策として望ましいかの議論もせずに、予算枠だけは決め、供給業者が行う調査費用も「土砂調達に関わる契約」に含めるというわけである。

進め方の不当性は明確であるが、予算が付いていることは事実で放置するわけにはいかない。これでは、何の防除対策にもならないことは那覇空港第二滑走路問題で示されている。

当面は、この点を再度指摘し、外来種防除対策に関するガイドラインを策定すること、それが確定するまでは再質問書の提出などを通じて、今年度55億円の契約手続きを一切行なわないよう強く求めていかねばならない。

第192回国会　沖縄及び北方問題に関する特別委員会　会議録　第3号をご覧ください。

琉球新報一面コラム欄に取り上げられました

16・12・10 琉球新報

金口木舌

「つながる力」。ありふれてはいるが、元気が出る言葉である。辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会の会報の名前だ。昨年5月の結成時から募集していた。9月の第5号から晴れて名前が付いた▼協議会の取り組みによって4月までに搬出地の8県10カ所がつながった。現在、12府県18団体が協議会に結集して「つながる力」を発揮している。署名を集め、防衛省、環境省、当該県などに要請、交渉を重ねている▼共同代表の阿部悦子さんは、瀬戸内海を埋め立てや海砂採取から守ろうと運動している環瀬戸内海会議で長年活動してきた。昨年、搬出地を全て訪ねようと決意し、今年3月で達成した▼各地を回ることで見えてきたものは何だったのだろう。「搬出地は全て過疎に悩んでいる。そしてどこも美しい故郷だったのに、人が住めなくなっていく」。山が消え、海が汚され、採石であいた穴を埋めようとやって来るのは最終処分場だ▼協議会が4月に発刊した冊子の表題は「どの故郷にも戦争に使う土砂は一粒もない」。被害者である自分たちが加害者にされることへの憤りが凝縮されている▼「つながる力」と最後まで争った会報名の候補は「石の心」だった。石には罪はないのに、搬出地を苦しめ、搬入先で自然を破壊し戦争の土台にされる。人間の身勝手な欲望に反省を迫る。これも捨てがたい名前である。

# 2016.9.1 国際自然保護連合 第６回世界自然保護会議が採択
# 決議「島嶼生態系への外来種の侵入経路管理の強化」

９月、ハワイで開催された第６回世界自然保護会議で、日本自然保護協会・ジュゴン保護キャンペーンセンターほか国内６環境団体の共同提出決議**「島嶼生態系への外来種の侵入経路管理の強化」**が採択されました。辺野古への土砂搬入による外来生物種侵入が国際的関心を呼び、国際的包囲網が築かれました。

この力を生かしていきましょう。

## 決議「島嶼生態系への外来種の侵入経路管理の強化」（抄録）

**１．** 2012 年（済州島）に採択された決議を想起し、**２．** 生物多様性条約にて採択された新戦略計画 2011-2020 愛知ターゲット目標９には「2020 年までに、侵略的外来種とその定着経路が特定され、優先順位付けられ、優先度の高い種が制御され又は根絶される、また、侵略的外来種の導入又は定着を防止するために定着経路を管理するための対策が講じられる。」と記されていることを、再度強調し、 **３．** 生物多様性条約締約国会議決議 VI/23 附属書の“外来生物種の生態系、生息地あるいは(在来)生物種に及ぼす危機についての予防・導入・影響緩和に関する指針”第 7 項の国の役割に示されたとおり、独立政治機構域内(通常は国の司法の及ぶ範囲)の侵略的外来生物種 の侵入定着は、存在する司法ならびに行政方針に沿って、適切な移入管理の取り組みを執行するよう、深慮考慮を行うべきであることを想起しつつ、生物地理学的領域を越えた外 来生物種の移入は、たとえ国内であっても（＝独立司法の及ぶ地域内であっても）生物学 的侵略の危険性のある行為であると、承知し、 **４．** 明確な生物地理学的な区域を越えた外来種の導入は、国境内であっても生物学的な侵入のリスクとなることを認識し、 **５．** 日本政府は沖縄島と奄美大島、徳之島を世界自然遺産登録地として国連教育科学文化機関（ユネスコ）に推薦していることを留め、 **６．** 沖縄島の辺野古で計画されている米軍基地建設の埋め立ての遂行には 2,100 万トンの土砂が必要である。そのうち 1,700 万トンは本土と奄美・琉球諸島に属する２つの島である奄美大島と徳之島から運ばれる。沖縄島にとって外来種となりうる（生物種が住む）場所であると認識し、

IUCN 世界自然保護会議は，その第６回会議（2016 年９月１日～10 日，ハワイ、アメリカ）において，

１．IUCN 事務局長と種の保存委員会に、以下のことをリクエストする。

国際的協力を通じ、島嶼生態系の侵略的外来種と侵略的外来種となる可能性のある種の早期発見とモニタリングのキャパシティを強化すること。

２．日本政府に以下のことを要請する。

外来種の侵入経路を作ることに注意をすること、特に沖縄島・辺野古米軍基地の埋め立て工事現場まで、埋め立て資材に混入して運ばれる外来種に対し経路を作ることになる。中でも特に

ａ）土砂が沖縄島の辺野古に運ばれる前に、混入する外来種を早期に発見する方法を確立すること、そして沖縄の地域の専門家や生物多様性保全活動に関するステークホルダーが勧める方法を取り入れること

ｂ）第三者的な立場の専門家を招き、埋め立て土砂運搬に関する適切なリスク評価を実施すること。沖縄の重要な生態系を守るためのリスク軽減策を適用すること　（ c）と d）省略 ）

３．日本政府にさらに以下のことを要請する

日本政府は琉球諸島における観光と軍事活動により、外来種の導入のリスクが高まることを認識し、外来種の導入を入口となる港や空港で防ぐ対策を強化すること

４．アメリカ合衆国政府に、以下のことについて招待する。

埋め立て土砂、船、航空機、軍事活動を通じて入る外来種を防ぐ適切な方法を取り、日本政府と協力し、沖縄島へ入る外来種の影響を最小化すること。

**㊟　日本政府は採択を棄権しました！**

# 「鹿児島学習交流集会・南大隅視察」を終えて

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会共同代表　　阿部　悦子

去る 11 月 23、24 日の「鹿児島学習交流集会・南大隅視察」は、10 月 1 日に行われた天草での第 3 回総会の席で、「自然と文化を守る奄美会議」共同代表の大津幸夫さんが提案されたものでした。

「奄美会議」は、2015 年 5 月の当会の発足を呼び掛けてくださり、その後も専門家を招致しての潜水調査等で採石地下流の海域汚染を証明されました。さらに今年になって、奄美大島から沖縄那覇空港に搬出する石材置場の 4 か所全てから「特定外来生物」のハイイロゴケグモが見つかったことから、鹿児島県議会に「土砂搬出地からの規制」を盛り込んだ条例を作るよう要請行動をしてこられ、「土砂搬出反対」運動のけん引役を果たしてくださっています。また、11 月 1 日の防衛相・環境省交渉でも、特定外来生物除去のために「石材」は洗えても「岩ズリ」は洗うことが不可能なことを、現物を持ち込んで証明されました。

16.11.1　防衛・環境両省との要請交渉の場・衆議院議員会館に持ち込まれた奄美大島の岩ズリ。
　赤土のような細粒が大量に含まれている。那覇第二滑走路用に搬出された石材のように「洗えますか」の問いに、防衛省は沈黙してしまった。

このような「奄美会議」のこれまでの運動の成果が、23 日の集会で鹿児島県内の人々に周知され、さらに翌 24 日には鹿児島県南大隅町の採石場視察と現地で運動する「南大隅を愛する会」や採石地「辺塚」の方々にもお会いでき、大隅半島の運動とつながることが出来ました。まさに、「つながる力」を実感した 2 日間になりました。

土砂搬出地は、どこも人口減少が著しい過疎地であり、そこを狙って辺野古への土砂が搬出されようとしています。美しい多くの故郷がこのように崩壊していこうとするさまに直面して、今後も西日本の各地の運動が手を携えていこうと誓い合った充実の「鹿児島学習交流集会」になりました。

# 11 月 23 日鹿児島学習交流集会　木村朗教授が基調講演

# 戦後からトランプ勝利まで…歴史の中で沖縄問題を語る

辺野古土砂北九州連絡会　　八記　久美子

講演が始まる直前に短いご挨拶をしたところ、先生が、私が住んでいる北九州市の出身だということや、気さくな人柄ということが分かり、大変親近感を覚えました。

そんな先生のお話は、戦後からトランプ勝利までの 70 数年にわたる、日本の歴史の中での沖縄問題でした。本報告は、先生のレジュメを中心に主な点を箇条書きで報告します。

○いまの日本社会は、民主主義からファシズムへ、平和国家から戦争国家への、大きな岐路・過渡期にあると言っても過言ではない。

○当時(戦後)の吉田政権は、米国を盟主とする西側の一員となるという選択をした。この選択によって、日本は、「軍隊のない国家」「軍事同盟を結ばない国家」として、世界の非武装化の先駆的な役割をはたすという「もう一つの選択」を失った。

○今日における日本の根本問題である「対米従属」「アメリカ化」の原点がここにあると言えよう。

○歴代の日本政府は、再軍備と軍事同盟締結が実は米国から押しつけられたものであるという事実を隠蔽する一方で、自衛隊と安保条約の存在を既成事実として国民に受容させることに力を入れてきた。

○その結果、国の最高法規である憲法よりも、安保条約や自衛隊法などを優先させる「法の下克上」(前田哲男氏の言葉)という異常な状態が生み出され、民主主義の基本原理である法治主義・遵法精神が根底から蝕まれてきた。

○沖縄問題は日本問題であると同時に米国問題であり、米軍基地問題の根本的解決は日米安保条約の解消しかあり得ないというのが私の基本的立場である。

○私たちは、権力とメディアが一体化した言論統制・情報操作によって不可視化されてはいるが、沖縄でいま起きている異常事態は、まさに近未来の日本本土の姿でもあることを直視すべきである。

○優先すべきことは、米国に代わって代替基地を探すことではなく、「世界一危険な」普天間での訓練即時中止、基地閉鎖をあらためてはっきりと米側に突きつけることである。

○いまこそ日本が自立と連帯、すなわち際限のない対米従属からの脱却と東アジア諸国との共生関係の創造、あるいは日米安保条約の解消と東アジア共同体の構築を目指さなければならない。

○その意味で、世界の警察官をやめて世界中の米軍基地を縮小・撤退することを唱える「トランプ大統領」の登場は、日米関係の根本的転換をもたらす日本と沖縄にとって大きなチャンスとなるかもしれない。

先生のお話とレジュメで、沖縄問題の本質が本当によく分かりました。

木村先生、ありがとうございました。

# 土砂搬出に対する南大隅の現状と取り組み

# 辺野古土砂全協の南大隅町辺塚視察を取り組んで

南大隅を愛する会代表　　大坪　満寿子

私の町・南大隅町は自然あふれる緑豊かな山々に囲まれ、海に沈む夕日は素晴らしく、その美しさに訪れた人は圧倒されます。

その町に住む私に 2015 年 12 月愛媛県の阿部悦子さんから「是非会って話を！」との連絡が、辺野古土砂搬出反対運動に関わるきっかけでした。

当時、私は「南大隅を愛する会」で核の最終処分場を佐多辺塚に持ってこさせない！作らせない！運動をしていましたので､｢えっ？何？岩？花崗岩を沖縄へ？どうしてまたあの辺塚なの？」と耳を疑い大変ショックを受けたのを覚えています。

早速、阿部さんを案内し辺塚へ。公民館長さんからお話を伺うと､業者が反当り 30 万円程で山を買いあさり、すでに売ってしまっている人もいるとの事実に驚きました。

公民館長さんと数名の集落の方は「この地を守らねば！！」という思いで頑張っておられるのが痛いほど伝わってきました。

私たち南大隅を愛する会も微力ながら何かができればとの思いで、辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会（以下､辺野古土砂全協）に加入しました。

辺野古へと運ぶ花崗岩を買いあさっていた業者とは別の業者も今動いています。

一度取り崩した山々の惨状は、辺野古土砂全協の仲間の話を聞くとよく分かります。

奄美では雨が降る度に土砂が流れ出し、赤い海となりサンゴが死滅し、他県の仲間の山の写真を見てもその山の痛々しい姿に目を当てることができないほどです。又、沖縄に目を向けてみると米兵によるレイプ事件、住民の反対を無視し建設されようとしている辺野古基地、ヘリパッド等、沖縄の方々の戦争はいまだ続いています。

私たちは自然を守り子供たちの未来を守るため運動を続けています。私たちの運動は特別なことではなく、ごく当たり前のことです。

南大隅を愛する会の土砂搬出反対運動に関する取り組みと核の最終処分場反対運動の取り組みはリンクしており、自然を守り子供たちの未来を守り抜く運動だと確信しております。

この度、11 月 24 日に陸の孤島・南大隅町辺塚への辺野古土砂全協の視察が実現しました。

早朝にホテルを出発。あいにくの小雨模様での視察になりましたが、途中 2 カ所の採石場跡を見学。いよいよ辺塚へ。私は辺塚を訪れるたび管直人前総理が言われた言葉が頭をよぎります｡｢この町の人には悪いけど、政府が狙ってくるはずだ。（最終処分場には）いい町だ｡」（いえいえ、自然豊かな素晴らしい町です！）気持ちを切り替え採石予定地へ視察に向かいます。

そこには、辺野古土砂全協メンバーはじめ南大隅を愛する会、鹿児島県議会議員・市議会議員その他の方々も集まって下さり、多くの人々がここ辺塚に関心を持っていることが分かりました。

食事をしながらの意見交換、交流会を開き、地域を守るためにどのような運動をしているかなど貴重な意見を聞くことが出来ました。

南大隅町は核の最終処分場問題、辺野古への岩搬出問題等大変な問題を抱えています。

しかし、辺野古土砂全協に加入し南大隅辺塚視察を取り組んで、改めて仲間を得た喜び、輪の広がり、つながっていく力を感じました。メンバーに会うたび頑張る勇気・やる気をもらいます。

今だ 20 年以上の戦いが続く沖縄｡私たち南大隅町は始まったばかりです。

長い闘いになろうとも、くじけず共に頑張りましょう。

またいつか陸の孤島へおいで下さい。

お待ちしております。

# 11,24 辺野古への岩ズリ採取地・南大隅町辺塚視察に想う

## ～　参加された皆さんからの一言メッセージ　～

**☆　寺園　としえ　さん（南大隅を愛する会）**

11 月 24 日あいにくの曇天の中、南大隅町佐多辺塚に向けて出発。

錦江湾に浮かぶ開聞岳を見ながら大蛇のように曲がりくねった道を進み、辺塚の岩ズリ現場に着いた。立派すぎる花崗岩の白御影石が目に飛び込んできた。

素晴らしい大自然の山肌を削り、この岩を辺野古へ。

私たちは、岩ズリを採取した後に核のゴミ最終処分場の有望地として浮上するのではと不安が脳裏を掠める。

一度破壊した自然は、もう二度と元には戻らない。手つかずの辺塚の原生林を守り、子や孫の為に残して引き継いで行かなければならない！！と皆で誓い合った現場視察の一日でした。

採石現場で地元の方から話を聞く

**☆　牟田　実　さん（鹿児島県護憲平和フォーラム）**

11 月 23 日、鹿児島において「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会」主催の学習交流会に参加させていただき、各団体の皆様の取り組みを聞き有意義な体験をしました。

また翌日には、辺野古への花崗岩搬出予定地になっている南大隅町の現地を視察し、改めて「核の最終処分場」の動きがあることも知りました。皆様の元気な取り組みと報告を聞き、私たち県護憲平和フォーラムも共に連帯し、「戦争への拠点」となる辺野古新基地建設阻止へ向けた戦いを強化していきたいと思います。

昼食を頂きながら
辺塚の皆様と交流

**☆　生駒　研二　さん**

**（辺野古土砂搬出反対熊本県連絡協議会）**

この国は子や孫に何を残そうとしているのか？

今から 40 年前の春､新婚旅行で大隅半島の佐田岬に行った。緑輝く照葉樹林と青く透き通る海が打ち寄せる海岸は美しかった。

そしてこの秋、辺野古への土砂搬出が計画されている大隅半島の南大隅町辺塚へ行く。鹿児島港からフェリーで桜島へ。さらに大隅半島を南下。錦江湾から深い緑の丘陵地を横切り太平洋に面した所だ。平成 20 年現在人口約 250 名。15 歳未満は３%弱。7 人？今はもっと少ない。新設された辺塚小学校は休校となっていた。美しい花崗岩が崩れ落ちるように美しい辺塚も崩壊し、採石跡地と自衛隊の射爆場のみとなるのか。この国は子や孫に何を残そうとしているのか。

**☆　大嶽　弥生　さん**

**（水俣の暮らしを守る・みんなの会）**

くねくねとした県道をバスで進みようやく辿りついた辺塚の集落は、太平洋に面した小さな村。そこには背後の深い山と目の前の海、そして田んぼや畑もある。都会から見れば交通の便が悪い「辺境の村」なのだろうが、人間が生きていくのに必要なものは揃っている。このような場所を「国策」という暴力でどんどんと壊していく。辺塚を訪ねて、改めてこの国の横暴なやり方に怒りと、未来に対する不安を感じた。

# ‼ 御所浦島が泣いています ‼

御所浦地区振興会長　　花里安幸

私たちが住んでいる御所浦町は、熊本県唯一の離島であり、天草諸島の東側に位置して、不知火海に浮かぶ自然豊かで大変住みやすい町です。有人島の３島（御所浦島・牧島・横浦島）を含む 18 の島々からなり、古くは約二千年前、景行天皇が熊襲征伐の折に立ち寄られたという伝説があり、歴史とロマンを秘めた島でもあります。主要産業は漁業ですが、近年は漁獲量が激減し、魚価は低迷し、合わせて資材が高騰し厳しい生活を強いられております　　。

しかしながら、平成九年に恐竜の歯の化石が発見されて以来全国的にも注目されて、現在では天草ジオパークの発祥の地として、日本ジオパークの指定を受けました。これが起爆剤となり観光資源として脚光を浴び、最近では関西を中心に観光客も徐々に増えて来ています。

しかしこのような状況の中で驚くようなとんでもないことが発生しました。御所浦島南部の採石場で、採石の深堀と、その掘った大きな穴に、全国的に健康被害の危険性が問題視されている製鋼スラグが搬入されていることが判明したのです。

私たち町づくり協議会が調査したところ、採石は昭和 52（1987）年より開始され、現在まで 40 年間続いています。義務付けされている段切りはされず、緑化もされず、地下数十メートルも巨大な穴が掘られている現状に、私たちは言葉を失い唖然としました。そこに八代港等のヘドロや浚渫土に土砂、さらに岡山県等遠隔地から高い運送費をかけて製鋼スラグが搬入されているのです。

以来七回、熊本県と話し合いの機会を持ちましたが、県は私たちの申し入れには耳を貸さず、常に業者サイドに立ち許可ありきの態度に、『熊本県当局に対して大きな圧力が投入されているのでは？』と疑念を感じています。御所浦島は泣いています。環境破壊の極みです。

今、私たちは負けるわけには行けません。このまま引き下がることは出来ません。阻止できなければ、環境破壊は御所浦町のみならず、天草全体へ、熊本県から全国へと波及し未来はありません。子供たち孫たちに、ふるさと御所浦と美しい自然をそのまま譲り渡し、引き継ぐことは、今を生きる私たちの責任と思います。本意ではありませんが、私たちのふるさと御所浦町を守る為、最後まで戦うと決意しております。

皆様のご協力ご支援下さいますよう、よろしくお願いします。

2006 年、山陽特殊製鋼から兵庫県淡路島の谷あいに持ち込まれようとした製鋼スラグ。大きくても 5 センチ程度、強アルカリ性で人体に有害な重金属を含む。（編集部：注）

沖縄からの便り
≪連載 №3≫
いちゃりば
ちょーでー

# 《ヘツカリンドウが結ぶ縁》
# 「国策」という暴力に抗して
# 辺野古・高江への弾圧を許さない！

ヘリ基地いらない二見以北十区の会　浦島悦子

11月26日、沖縄島北端に近い西銘岳の山道で、ヘツカリンドウに出会った。一見地味だけれど、よく見ると、緑と紫と白を基調にさまざまなバリエーションを見せる繊細な花の美しさと気品に魅せられ、虜になる人が多い。残念ながらまだ固い蕾で、私の大好きな花を見ることはできなかったが、この花の名前の由来が、2 日前に訪れた鹿児島県南大隅町辺塚である（辺塚で最初に棲息が確認されたという）ことを知った直後だけに感慨深いものがあった。

今年3月、私が事務局長を務める「稲嶺市政を支える女性の会（通称：いーなぐ会）」で阿部悦子さんをお招きし、お話を聞いた時から、辺野古埋め立て土砂搬出予定地の中でも特に過疎化が進んでいるという辺塚を訪れることは私の悲願だった。ごく短時間の訪問だったけれど、幾重にも重なる山々と海の美しさ、その自然に抱かれて歴史と文化を育んできたこと、高齢化・過疎化の悩みに付け込んで「国策」という名の暴力にさらされていることが、私たちの地域と重なり、胸に染みた。そんな困難の中でも前を向いて未来を切り開こうとしている人々と出会うことができ、大きな勇気をもらって帰ってきた。

それぞれの故郷を何としても守ろう！　という思いを改めて確認した旅だったが、沖縄に帰ると厳しい現実が待ち構えていた。

日米両政府は「12 月 20 日に北部訓練場の返還式典を行う」と発表し、それに向けて高江のオスプレイパッド建設工事を猛烈なスピードで進めている。抗議する住民・市民を、その何倍もの機動隊が力ずくで排除し、11 月以降は 1 日百台以上のダンプが砂利や土砂を搬入、夜間や未明の工事まで強行している。森林法も無視して森を滅茶苦茶に切り裂き、剥き出しの山肌からは血のような赤土が川へ、海へ流れ込む。すでに完成した 2 つのオスプレイパッドを使った深夜までの訓練に悩まされている高江区民を「補償金」で翻弄する国家権力のあくどさに煮えかえる思いだ。

11 月 29 日朝、今度は辺野古から悲鳴が上がった。３月の国と県との「和解」以来、工事は止まっているが、それ以前（1 年近くも前！）のゲート前阻止行動が「威力業務妨害」だとして数か所が家宅捜索され、４人が令状逮捕されたのだ。辺野古の工事再開をにらんでの予防弾圧だろう。

ぜひ、全国からの抗議と監視を！

【追記】

年末 12 月、名護市安部海岸へのオスプレイ墜落・大破、原因究明もされないままの飛行再開、翁長知事の辺野古埋め立て承認取り消しをめぐる「違法確認訴訟」で県敗訴の最高裁判決、日米両政府による「北部訓練場返還式典」の強行と、息つく間もない米軍と安倍政権の嵐が吹き荒れた。

最高裁判決を受けて沖縄防衛局は早速、年末から新基地建設に向けた準備作業を開始。年明け４日から海上作業を再開した。海と陸双方でのたたかいが再び始まっている。

**ヘツカリンドウ（辺塚竜胆）**

林野庁九州森林管理局 HP
「屋久島の植物図鑑」より
九州南部に分布する二年生草本。幅６cm、長さ 20cm ほどのロゼット状の葉から、秋に花茎が 60～70cm に伸び、それに十対ほどの側枝が対生し、多数の蕾をつける。花弁は五枚が多いが四枚のものもある。満開の花では花弁は反り返り、表側は黒ずんだ赤紫色に黒色の斑が入る。

# インフォメーション

## 次回、辺野古土砂全協　第４回総会は、
## 5 月 27 日(土)～28 日(日)、北九州市で開催します。

今年、全国からみんなが来るのを、楽しみに待っちょるけねー　by　北九州連絡協議会
今から日程をスケジュールに入れておいてくださいね。詳細は次号でお知らせします。

◆　**岩国を戦争に最も近い基地にさせるな**
**―　世界規模でも突出した**
**基地強化をヒロシマから問う　―**

１月２８日(土)　14：00～
廿日市市商工保健会館交流プラザ
講師　湯浅一郎（ピースデポ副代表）
参加費　８００円
主催　岩国基地の拡張・強化に反対する広島県西部住民の会（TEL：0829-31-3356）

◆　**土砂搬出を考える集い**
**「黒髪島の土砂が辺野古にいく」**

１月 29 日(日)　13：00～15：00
周南市役所仮庁舎６階大会議室
（周南市銀座通り　JR 徳山駅から徒歩２分）
お話　湯浅一郎（環瀬戸内海会議共同代表）
資料代　５００円
主催　「辺野古に土砂を送らせない!」山口のこえ
（防府バプテスト教会：0835-28-7522）

◆　**「高江―　森が泣いている-2」上映会**

２月 12 日（日）①10：30～　②14：00～
高松市社会福祉総合会館第２会議室
主催　故郷の土で辺野古に基地をつくらせない香川県連絡会（TEL：090-8698-2114）

◆　**シンポジウム「外来種対策の課題」**

２月 25 日(土)　12：30～16：30 予定
中央大学駿河台記念館 670 教室(千代田区)
登壇者：五箇 公一（国立環境研究所）
安部 真理子（NACS-J）　ほか
主催：WWF ジャパン、日本自然保護協会
後援：自然保護助成基金
問合せ先：NACS-J 外来種シンポジウム担当
（TEL：03-3553-4103 ）

## ■　カンパ等の振込先

郵便振替　０１７５０－８－１４４１５８　辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会
２０１６年度会費が未納の団体は、入金をよろしくお願いします。

## ■　編集後記

2015 年８月に創刊した当会ニュースは、「つながる力」と命名されて、今号ですでに 7 号目。これは編集長の八記さんのお力に負うところが大きいのですが、当会各地の活動がいかに豊富に行われたかということだろうと思います。また、何よりも「沖縄」の情勢がいつも緊迫と緊張を強いられていることが背景にあります。沖縄に通い、また思いを共有しながら土砂を搬出させない運動を続けていきたいと思います。(阿部)

≪辺野古土砂搬出反対全国協ニュース≫
発行責任者…全国連絡協議会共同代表　大津幸夫（自然と文化を守る奄美会議）
阿部悦子（環瀬戸内海会議）　hibi_etsuko@yahoo.co.jp
編　　集…松本宣崇（環瀬戸内海会議）　nmatchan@ms8.megaegg.ne.jp
八記久美子（門司の環境を考える会）　kanpanerura8k@mail.goo.ne.jp
連　絡　先…〒790―0812　愛媛県松山市松前町3-2-2　阿部悦子　TEL：090-3783-8332